
ショートショートII「登龍門」

有沢翔治

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ショートショートII 「登龍門」

【Nコード】

N3753BA

【作者名】

有沢翔治

【あらすじ】

瀧を登り切れば龍になれる。その話を聞いた一匹の鯉が挑みますが……。

「おい、聞いたか。あの山の瀧たきに登れば龍になれるらしい」

鯉たちの間ではそんなウワサが広まっていました。たくさん魚たちが挑戦したものの、辿りつけないらしいのです。

「お前ならいけるんじゃないか？」

ある池で一匹の鯉が声を掛けられました。それを聞いて、仲間たちがワツと集まってくれます。

「行くのか？」

せっかちな一匹にせっつかれ、彼は慌てました。

「い、いや、まだ決まったわけじゃないよ。それに僕なんかじゃとても無理だし」

「なに言ってるんだ。お前なら行けるって」

「そ、そうかなあ……」

どうせお世辞だろう。彼はそう思っていました。が、だんだんと乗り気になってきました。こうして何匹もの鯉に見送られ、彼は川に登っていったのです。

その滝つぼへの道のりは遠くて、何日も何日も泳ぎ続けなければなりません。途中で景色をのんびり見ていたら、流れに飲み込まれてしまうのです。

たどりついた！ 滝つぼが見えてきて、彼は思わず叫びました。

しかし、ここからが本当のスタートです。

いざ登ろうと、彼は瀧を見上げました。滝つぼにはたくさん魚の死骸が沈んでいます。それを見て、思わず身をすくめました。やっぱ引き返そうかな……。いや、ここでくじけたらいけない、と奮い立たせ、登っていったのです……。

「やった！」

彼は登り切ったことを確かめようと、期待してヒレや尾を見まし

た。しかし、ほんの申し訳いどに変わっているだけだったのです。首をかしげているところに、水の落ちる音が聞こえてきました。そこには彼をあざ笑うかのように瀧がまたそびえていたのです。

引き返そうと、怖々、登ってきた瀧を見下ろしました。目もくらむ高さで、ここから飛び降りるとなると死んでしまうかもしれない。ん。

このままとどまろうか。そう考えましたが、絶え間なく身体に打ち付ける水しぶきでやがて力尽きるでしょう。溜息をついて、のろのろと瀧の方へと泳いでいったのでした……。

滝つぼにはたくさんあすなろの魚の死骸が沈んでいます。瀧の傍にはそれを悼むかのようにあすなろの木が一本、立っていました。

(後書き)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3753ba/>

ショートショートII「登龍門」

2012年1月9日20時50分発行